

令和8年1月20日

futbol y vida

Poco a poco ...
 poco a poco ...



2026年は神村学園が完成度の高さで夏冬二冠!!
「感謝と思いやりの気持ち」の大切さを忘れずに!!

2026年 新春ミニフェスティバル参戦からスタート!!

駒馬十駕の如く “K's football style”を進化させる!!

2026年新学期がスタートしました。今年の冬は西高東低の冬型の気圧配置が強く厳しい寒さが続いています。特に日没後のグランドに立っていると足元から凍てつく寒さが襲ってきます。久しぶりに朝晩の八王子の寒さを痛感しています。私たちスタッフ陣は風邪ひいて休めませんので体調管理には十分に気を付けて生活していきたいと思います。

改めまして、本年も片倉高校サッカー部への応援&サポートを宜しくお願い致します。

2026年新春も満身創痍で恒例のミニフェスティバルに参戦!!

さて、53期生チームは、新年の1月5日から一昨年より参加している「寒川招待」と新学期早々に行われた「ミニフェスティバル（熊谷市葛和田）」に参戦してきました。昨年同様、私が赴任した六年間で最も 2025年謹賀新年 人数の少ない15名（記録更新）。しかも、年末のフェスティバルの怪我のためにプレーできるのが11名という常に人数もギリギリでしたが、三年生や元気なスタッフの力を借りながら、厳しい台所事情の中満身創痍になりながら闘い抜きました。年々、この時期は、新チーム切り替えのたびに子どもたちのスポーツマンとしての自覚のなさとひ弱さにスタッフ一同危機感を抱いています。二週間後（25日）には、今年初の公式戦である新人戦三回戦が行われます。時間はありませんが、長い一年間を考えると、ここで結果を急ぐよりも真摯に取り組み少しづつですが成長しているものにチャンスを与えることも大切だと感じています。

新入生が合流するまで少数ですが精鋭となるかそれとも…？引き続き、この二週間しっかりとトレーニングして新人戦に挑みたいと思います。



臥薪嘗胆 寒風の吹く中、満身創痍で挑んだ新春のフェスティバルで揉まれて成長をする

HAPPY NEW YEAR 2026
Diorama by K's football style

2025年新入生、インターハイ、選手権は一次敗退 地区リーグへ再挑
2025年目標：2025年の反省より ➡ 選手権ベスト8 リーグ復帰

第104回 選手権大会決勝は「疾風怒濤」の精神を受け継ぐ神村学園が初優勝!!

1月12日(祝)、第104回「全国高校サッカー選手権大会」決勝戦が新国立競技場で行われました。決勝戦は、プレミアWEST所属の**神村学園(鹿児島)** VS 関東プリンスリーグ所属の**鹿島学園(茨城)**。お互い初優勝を目指す東西対決の好カードとなりました。神村学園は、夏のインターハイ王者で夏冬二冠を目指し、Jリーガー内定四名を擁する今大会最も下馬評の高いチームです。対する鹿島学園は、関西出身の選手を中心に構成されスキルの高い選手が多く、準決勝では優勝候補の一角である流通経済大柏高校戦に終了間際のシュートで勝利して決勝戦にコマを進めてきました。話題満載の注目の好カードにレベルの高いゲームを期待する観衆が新国立競技場に昨年を上回る高校サッカー史上最多の**6万142人**が集まりました。



決勝戦に相応しい好カード

決勝戦は中一日の影響もありフィジカル面で優位に立つ神村学園ペースで進んでいきますが鹿島学園の二枚のCBとGKプムラピー選手が堅固な守備でゴールを許しません。しかし、前半19分、神村学園が縦に抜け出しGKがはじいたシュートを得点王となった日高選手(3年)が決めて先制します。前半終了間際にもゲームメーカー堀ノ口選手(3年)のミドルシュートがゴールに突き刺さりリードを広げます。後半、鹿島学園にも好機は訪れましたが、神村学園の球際の強さや守備陣の堅さでゴールを許しません。そして、終了間際にもダメ押しゴールを決めた神村学園が悲願の**初優勝**。21年ぶりに鹿児島県勢が頂点に立ち史上六校目の夏冬二冠を達成しました。



完成度の高いチームの“神村学園”が夏冬二冠達成

<After the Game>

得点の攻撃陣を支える安定した守備陣

104回高校サッカーは神村学園の夏冬二冠となる優勝で幕を閉じました。**おめでとうございます!!** 初優勝ながら多くのJリーガーを輩出する神村学園を指導するのは**有村圭一郎監督**(48)で現在のライバル校である名門鹿児島実業高校出身であり、17年に亡くなった名将**松沢先生**の指導を受け、監督自身も30年前の95年の**鹿実初優勝**時のメンバーでもあります。選手として監督として優勝を経験した方です。有村監督は、恩師の遺志を受け継ぎ「**思いやりと感謝の気持ち**」について前日ミーティングで選手に説いていました。その指導が神村学園の選手たちの会場での立ち居振る舞いを見てしっかりと届いているように感じました。最近は、サッカーの指導だけに終始する方も多くみられますが、高校サッカーは学校教育の一貫であり、忘がちな原点のところはブレずに指導していくことの大切さを再認識させられました。ここまで多くの方々に支えられてきた感謝の気持ちを「**ありがとうございました**」と言葉で伝えられる神村学園の選手のように片倉高校サッカーチームとしてだけではなく、個人としてもできるようになって欲しいものです。